

# 法務省の勉強会が終了

## 死刑の執行が迫っている

### 死刑について考えてみませんか

東京拘置所のそばで死刑について考える会（そばの会）

民主党政権の代々の法務大臣の下で続けられてきた「死刑の在り方についての勉強会」が小川敏夫法相の一存で終了になりました。

これまで、この勉強会で検討中であることが、死刑の執行を直ぐには行わない理由の一つとされてきたことを考えると、小川法相はいよいよ死刑執行に踏み切ろうとしているようです。

★★★

3月9日公開された報告書によると、第2回の勉強会で死刑廃止、存置それぞれの「代表的な意見」が末尾のように紹介されています。

同感のものにチェックしてみてください。きっと、あれっ？と思うことがあるでしょう。

報告書は次のようにまとめます。

「このように死刑制度の存廃に関する主張については、廃止論と存置論で大きく異なっており、そしてそれぞれの論拠については各々の哲学や思想に根ざしたものであり、一概にどちらか一方が正しく、どちらか一方が誤っているとは言い難いものであるように思われる。…（中略）…本勉強会における議論の内容を現時点で取りまとめた上で、これを国民に明らかにし、国民の間で更に議論が深められることが望まれる。」

★★★

現状＝死刑制度維持の姿勢が露骨な法務省官僚がお膳立てしてきた勉強会でも、「死刑存置」の結論を出すことはできませんでした。

小川法務大臣も、自身の考えは示していません。官僚にも大臣にも「哲学や思想」がないのでしょうか。結論は「国民」に丸投げされました。

そして、死刑判決は出され続け、死刑の執行が続けられていくのでしょうか。